五省会ニュース

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

五省
一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に缺くるなかりしか
一、努力に懾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

地域に開かれた総合医療施設を
21世紀へ運営計画の確立

三月二十一日　開院二十八周年記念式

開院二十八周年記念日を迎えた五省会西能病院は、三月二十一日、五階ホールで記念式を挙行して十七人の永年勤続者を表彰、西能院長は「二十一世紀に向けて運営計画の確立を」と挨拶。昭和三十七年三月の開院から〝信頼と奉仕〟をモットーに、心の通う医療、そして、きめ細かい地域医療の提供を進めてきた。これからも、充実した医療システムに加えて、福祉や健康の分野にも組織をあげて取り組み、地域の皆さんに愛される新しい時代の総合医療施設として努力を重ねていく方針だ。

検査手段の高質化

五省会画像センターを設置

これからの地域医療活動の一環として、五省会・画像センターを設立する。これは一般に高額医療機器と呼ばれるMRI（超電導磁気共鳴イメージング装置）と、CTスキャナーを備え、画像の高質化、読影の高質化で診断機能を高めようというもの。

設置場所は病院本館の売店、喫茶あすなろのスペースで、三月十九日に着工、完成は今年四月末の予定。売店、あすなろは他所に移転する。

MRIは、磁気で横、縦断自在に写真を撮ることができて、造影剤を必要としない。脊柱疾患（腰痛症を含む）に偉力を発揮し、レントゲン写真に次ぐスクリーニングな手段として、整形外科でも魅力ある検査手段。

CTスキャナーは、一般化の趨勢にある。X線で腹部、頭部などの軟部組織を写しだすことができる。これまでのレントゲン写真では骨だけ。

なお、富山県ではMRIの設置病院が少ないので、他の医療機関に共同利用を呼びかけることにしている。

地域に溶け込むサービス精神で

開院から現在までの対外活動をみると―。

救急車、患者通院バス、牛岳スキー場救急隊、奥さま社会見学、社会福祉協議会西能基金一千万円（一回百万円）五省会ニュースの発行、そして六十年九月、地域住民のための健康教室（月一回、五階ホール）を開いた。

六十二年四月、地域医療チームを編成、同月から始めた訪問看護、訪問診療の在宅診療養活動を担当、健康教室も。六十二年四月から寝たきり老人への無料入浴車サービスを同チームが担当した。

一方、六十三年四月からの休日診療（内科と整形外科）には毎日平均百五十人の患者さんが訪れ、「便利だ、有難いことだ」と喜こばれている。

各種行事の救護班派遣、各種地域の講演に講師派遣は遂年増えている。

永年勤続表彰者

▽二十年（二人）杉村洋、田上慶子
▽十五年（一人）安田十四子
▽十年（七人）北浦純子、老田奉夫、林直美、吉崎智、坂田隆夫、村井悟、形部美和子
▽五年（七人）黒畑喜美子、小沢優子、平井恵美、藤田真由美、吉田早苗、戸田よし子、熊野厚子

＝敬称略＝

新入職員（四月一日付）

▽中田達也（診療部）▽森田忠秀（リハビリテーション）▽上田かおり、内呂千春、波川満喜、村井美雪、森千秋、高山喜代美、高松亜紀子（以上看護部）▽可部谷剛（レントゲン）▽正田愛（事務）

＝敬称略＝

院長の挨拶要旨

近年、世界の社会情勢には、大きな変動が見られ、段々と私達の生活環境にも影響が及んでくることと考えられます。このような状況の中においては、年頭にも申しましたが、病院の組織の見直しと強化が急務と考えます。

そして、二十一世紀に向けての医療界の展望を見極め、着実な前進が約束される運営計画を確立し、皆様に安心して勤めて頂ける病院づくりに努力致したいと思います。

ご恩に報いる

西能 正一郎

開院二十八周年を迎えました。五省会西能病院が今日この姿で活躍していることをご利用いただきました沢山の地域の皆様、そして協力していただきました職員の皆様に心より厚く感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

一昨年七月、私は満六十才を迎えた機会に病院長を退任し、理事長として医療法人五省会の管理運営に専念することとしたことはご高承の通りであります。以来、新院長を激励する意味もあって、長い間やらせていただいて来た手術も出来るだけ遠慮して参りました。しばらくの間はなんとなく調子が狂いました。手術のさい、手の爪を切りますが、手術の目的もなく爪を切るとき、淋しい思いも味わったりしたものであります。そのままで済めばめでたしめでたしであったでしょうが、ついております。

人間が人間を意味なく切ればこれは傷害罪に問われるところでありますが、医師という立場であることだけで、これだけ沢山の人の手術をつづけて来て、又手術させて下さる方々があったということはまことに勿体ないことであります。私はそのように受け止めながら意味のないメスを入れないように自戒して参りました。お陰様で、これほど膨大な数の手術例半年ほど前から又症例を選んで時々手術をさせてもらっております。今日の記念号にはそうなるに至った私の思いを述べさせていただいて感謝の気持を捧げたいと思います。

私の病院では昨今、年間五百例に及ぶ手術件数がありますから、開院して以来過去二十八年間の私の執刀させていただいた手術件数はめぼしいものだけでも一万例は下るまいと思われるのであります。私が専門として来ました脊椎の手術でも二千例を超え全てが大きなあやまちもなく、皆様良くなっていっていただいたことを神に感謝せねばなりません。

外科系の若い医師の育成は今もなお徒弟制度の色彩が濃く、師匠が弟子に、先輩が後輩に一つ一つ手を取って教えて育ててゆくのが一般的でありますが、私は研究室に長く在籍するほど恵まれておりませんでしたので、充分な教えも受けずに自力で手術を遂行せねばならない立場でありました。

従って、開業しましてからも始めて遭遇するような手術を果たさねばならない場面も度々ありましたし、色々工夫して私なりの手技を開発したものもありました。それらの積み重ねが今日の当院の整形外科の技術の根幹になっているのであります。

私が、私に執刀させていただいた沢山の患者さんの身体を通して身につけさせていただいた手術手技を無にしてしまうのは申しわけない。若い後輩達にその技術の片鱗だけでも紹介して将来彼等が大器となる時にいささかでもお役にたてば、私に身体をあづけて下さったご恩に報いることになるのではないかと思ったからであります。

積み重ねの技術を後輩に
二十八年間の手術は一万例

あすなろ

昭和三十七年―その年、無責任にいこうと歌うクレージー・キャッツの映画から無責任時代という嫌な言葉が流行した。歌会始の盗作でスタート、当たり屋、ニセ札横行、三河島事件、山谷騒動…当時を知っている人には、ついこの間のことのようにも思えるし、遠い昔のことのようにも思えるだろう▼そのころの新聞切り抜きを見ていると、山間僻地の分校に勤める一女性教師の書いた投書があった。その部落に六千ボルトの送電線がついた喜びを綴った文だ。三年前、分校にテレビが入った。部落でただ一台のこのテレビを見るため、七十人の小、中学生は夜の山道を遠く学校まで見にきた▼ところが水の少ない時は三百ワットに足りない自家発電の電力では、すぐ電圧が下がりブラウン管の光が消えてしまう。生徒と教師は、一時間も二時間も、穴があいて水漏れするヒューム管をふさぎ、タービンにつまった木の葉を取り除いたりした。それでもラジオだけ聞いてさびしく雪の夜道を何度帰っていったことだろうーという。送電線がついた時の興奮が目に見えるようだ▼二十八年前、国民はまだまだ今では考えられぬ不便さに耐えていた。そのかわり今では考えられぬ素朴な人情の優しさや喜びもまた味わっていたように思う。西能病院が開業したのはこの年。二十八年の歳月は短いようで長い。

西能病院
二十八年の歩み

37年3月　富山市星井町40番地に西能整形外科医院を開設（収容施設10床）
38年10月　富山市五福1130に西能整形外科病院建設着工（木造病棟）
同病院完成、開設（18室47床）
38年12月　救急病院に認定
39年5月　第一期増築工事完成、開設（27室77床）
40年4月　第二期工事完成、開設（34室116床）
43年8月　富山大橋橋脚沈下で地鉄ビルに診療所開設
44年7月　外来患者累計50万人を突破
49年7月　入院患者累計50万人を突破
51年12月　形成外科クリニック開設（北里大学市田先生）
53年4月　内科外来の診療開始
「医療法人財団五省会」の認可
54年5月　「特定医療法人」認可
54年10月　第三期増改築工事完了。病床百八十五床
56年3月　内科を充実、内科病棟を新設
58年3月　集団給食部門で厚生大臣賞
58年4月　西能院長に厚生大臣賞、日本病院会で病院事業の発展向上に努めた功績
58年10月　外来患者累計百万人突破
59年5月　地域住民のための健康教室を病院五階ホールで開催。毎月一回
59年9月　中国医科大学第一附属病院講師、医学博士、金明熙氏（四一）が西能病院に研修留学
60年9月　西能院長が厚生省の新医療審議会の委員に選出
61年4月　入院患者累計百万人を突破
61年7月　基準看護特二類実施承認。
61年9月　地域医療チームを編成、在宅診療活動を開始
61年12月　スポーツ外来開設
62年4月　日曜、祝日を返上した年中無休の外来診療体制を開始
63年4月　入浴専用車で寝たきり老人の無料入浴サービスを開始
63年4月　西能竑副院長が二代目院長に就任
63年7月　五省会広報委員会を設置、委員長は中永企画・管理室長、委員五人
平成元年2月　三階慢性病棟が毎週一回、歌の会、折り紙の会、将棋の会を開催
平成元年2月　大山馨氏（前県立中央病院内科部長）が内科部長に就任
平成元年4月　健康教室が地域に進出、富山市寺町公民館で西能理事長が「腰痛について」
平成元年12月　第一回院内研究発表会を五階ホールで。十八演題を発表
平成2年1月

健康法の問題 (55)

大山　馨

キッチン感染症

先日テレビの料理番組をみていました。その時、パスターの作り方を解説しながら粉をよく捏ねている人の映像が出ていましたが、その左手に結婚指輪が光っていました。

又、きょうの料理」という本に「ポークソーセージは機械で作っては面白さが出ないから、手で作るので、肉の粘りがソーセージの弾力と肌理の細かさを決めるのです。そのこつ（要領）は左手の指先で耳朶を触り、それより少し柔めの感触を確かめながら腸結めを作って行くのです」と解説している人の左手にも指輪が輝いていました。

その人達はプロを意識している人ですが、私は感染症に興味を持っている方なので一寸気になりました。

料理の前には手をきれいに洗うのは当然のことですが、丁寧に手を洗ったつもりでも爪の裏や、手の襞などから黴菌が落ちきれず流れ出して、手全体に菌が拡がってしまうことがままあります。

指輪をしている場合は、もっと条件が悪く、その指輪の裏側から落ちきれなかった菌が沢山発見されます。そして、これらの菌が食中毒の原因となる場合が多くあることが知られてきています。

食中毒の中で発生件数、患者数ともに多いのは細菌性食中毒で、食品中で細菌が増殖しやすい六月～十月にかけて多発しています。冬は少ない傾向があります。原因菌として、サルモネラ、病源大腸菌、腸炎ビブリオ、ブドウ球菌、ボツリヌス菌等があります。

ここでは最近一年中を通して発生し、しかも、あんまり気づかれなくて、それで中毒の原因菌としては最も多いキャンピロバクター感染症を考えてみます。

キャンピロバクターという細菌は①食中毒を起こすもの。②胃、十二指腸の潰瘍に関係するもの。③稀には敗血症を起こすことのあるもの。今のところ、この三種類のあることが知られています。

このうち食中毒については、一九八二年、厚生省によって食中毒原因菌と認められています。

ところで、このキャンピロバクターという菌は、鶏や牛や豚等の腸管に由来するものです。感染原は生の食肉、牛乳などですが、菌のついた俎や、手に触れた食物を冷蔵庫に保管しておきますと、他の菌よりも容易に増殖して来る傾向があります。

これは比較的低い温度でも発育しますし、また酸素がないところでも発育する菌であります。従ってこの菌による食中毒は一年を通して発生します。

その頻度は大人の下痢の10％に、また小児の下痢患者の25％に本菌が検出されております。予防の第一は何といっても料理の前の丁寧な手洗いに尽きると思います。

手洗いはいくら丁寧にしても指輪は黴菌を隠れ家です。大切な心の絆の指輪も料理中だけは外して、独身の時の気分で心をこめて享調（包丁）をふるうのがよいと思います。

（西能病院　内科部長）

病床日記

池原　敏子（七〇）
富山市新庄新町

笑顔に心がなごむ

昨年十一月、腰痛などで入院した。その前後の激痛も今はとれ、感謝している。病院の空気は暖かく、隅々まで行き届いた清潔さ、秩序の正しさ。先生方をはじめ職員の皆さまの誠意によるものと思う。ことに、24時間中、お世話になる看護婦さんの笑顔で心もなごむ。

心の通う看護を

急性病棟（二階）と慢性病棟（三階）に二分されてから、もう三年を経過しようとしている。私の慢性病棟には高齢者が多く入院生活が長く、単調になりがちだ。そこで、趣味の会（歌、折り紙、将棋、などを通して、潤いのある安らぎの日々が送られるよう心の通う看護を大切にしたい。

看護日記

北浦　純子
看護部

医療や健康の要望を

五省会ニュースは、地域の皆さまの医療福祉の向上や健康に役立つよう務めております。医療、健康に関する要望や、身近かな問題について投稿（相談）をお待ちしています。

理事長の人生観に共鳴して

父親からの便り　医師の道を進む息子

今春、福井医科大学医学部を卒業の中田達也さん（二四）は、四月から西能病院整形外科に勤務するが、この程、父の中田保雄さん＝大沢野町高内＝から五省会ニュースに「息子は、理事長の人生観に共鳴し医師の道を歩きはじめます。皆様の暖かいご指導をお願いします」と、つぎの便りを。

――六年前のことです。

電気ビルで開催された、ある会合で、私は高校三年の長男達也の進学のことを理事長に相談したところ、「ぜひ息子さんに会って話をしたい」とのことでした。

そのあと、親子で病院に理事長を訪ねました。理事長は二時間たっぷり病院の現況や歴史、また将来の夢とロマンを語られました。

百数十人の職場でもあり、当院を利用していただいている数多くの患者さんのために、初代院長として長期展望に基づく布石を打っておかねばならない。

今、君を白い布と見たてて、一人前の医師に染めあげて見たい。私の生き方、哲学を引きついで将来に備える社会的責任があると、熱弁をふるわれました。

そして、今春、息子は福井医科大学の医学部を卒業して西能病院のスタッフとなります。

偶然の出会いと縁で、理事長の人生観に共鳴した一人の若者が医師の道を歩き始めます。

入院のつれづれに

ありがたや家族みんなに見守られ
体まかせる手術室
部屋のひと若きみんなにかこまれて
老いを忘れて仲間入り
お赤飯おさしみ付きのお中食
誠意嬉しき敬老日
夏すぎて秋は涼しさしたがえて
音楽隊の虫の声
木枯しの冬の足音しのびよる
雪の便りか利賀の里

＝利賀村上百瀬　野原しずい（七四）＝

対談　わたしはこう思う

いきいき老人社会②

老人問題には医療はどう係わるのか

北日本新聞論説顧問　兼久　文治氏
財団五省会西能病院理事長　西能正一郎氏

「病気になる前の健康保持に眼を向けたい」と西能理事長

兼久　老人問題は、日一日と深刻さを増し、大きな社会問題ですね。

西能　はい、とくに富山県の高齢化のスピードが早いんですね。だから、若者を投入しても追いつかない状態とも追いつかない状態。

しかし、私たちの周辺をみますと、定年退職年齢になったあと、することのない社会がずっと続いていたわけですよ。

兼久　そうですね。定年退職して、次の仕事を探している元気な老人がかなりいるようです。

西能　それで私、思うんですが、定年退職年齢が六十五歳になり、やがて七十歳になっても、七十歳なら七十歳なりに社会に貢献できる能力があるはずだから、少しずつその人たちの守備範囲を広くしながら、その人の持っている能力を死ぬときまで使っていけるような、そんな社会ができたら、老人問題はかなり解消され、いきいき老人社会ができるんでは……。

兼久　そうですね、ユートピアのような気もしますけれど……。

西能　そうなんですが、八十歳以上のご老人宅を定期的に訪れ、健康診断をしている医師がいるんですけど、その医師の話では、老人が能力が落ちたとき、テレビだけ見ているのと、前の田んぼを一枚あずけるから好きなものを作られたのを作ったりしているのとでは、生きている時間がたつとだんだん活力の差がでてくるんですって。

私が非常に面白いと思いますのは、田んぼで何かを作らねばならないということがないから、その人の好みと能力に応じて体を動かしているので、いつまでもやれるんじゃないかということです。

つまり、老人に対する、社会の対応の仕方というものをもっと工夫し、多様化してあげるべきじゃないか。ただゲートボールをしているだけじゃね。

老人省つくり　本格的に取組め

兼久　私も、よく似た話を最近聞きました。九十歳近い老人で、勧めのある息子さんと二人暮らし、息子さんは食事の材料を用意し、老人は自分で作って昼食をとる。しかし、倒れたら大変だ、といって嫁にいった娘さんが老人を引きとったんですね。そしたら途端に老人の調子が狂って眼はうつろになり、通院していたんですけど半年もたたないうちに亡くなったそうです。

老人にとってみると、娘さんに引きとられて体は楽なんだけれども、生きるハリを失ったんですかね。だから、一番大事なのは生きがいを持たすことじゃないですか。

西能　そう、そう。私は非常に簡単にいつも申し上げるんですが、老人ばかりでなくわれわれも夜寝るとき、明日何をするか分かる人生を送る。明日、こんなことをしようと思って寝るのと、朝起きてから何をしようかと迷うのとでは、随分とハリが違うと思うんです。

兼久　確かにね。

西能　最近、各地区では老人たちが工夫をして生産性のある仕事に挑戦しようとの動きはありますが、あくまで実験的なことであり、ボランティアみたいなものによって動いているわけです。

しかし、こうした大きい社会問題は、是非政府の機構として考えてほしいですね。そして、その場合は厚生省やら大蔵省やらといっていないで、老人省ちゅうもんでもこしらえないとね。いまのようなタテ割のセクショナリズムのある所では、とても期待できないと思います。

病気になる前の健康保持

兼久　少し話題を進めますが、いきいき老人社会なんていわれますね。こうした社会づくりと医療との係わりはどうなんですか。

西能　はい、そこが私たちにとって問題なんで

ねんりん 〈47〉

思い出を語る

光里　昭和五十七年九月に増築棟が完成、既設棟の入院患者さんを移しましたが、居心地はどうだったでしょうか。

明るくと新鮮

一同　入院患者さんたちの感想は「どこをみても明るく、新鮮で清潔で心が豊かになる」、「患者の身になってつくってあるのを肌で感じる」、「家庭的な愛情がにじみでている」など好評でした。一番喜こばれたのは十五人収容の大浴場。「のびのび、ゆったり、安らぎを覚え、気分満点」のおほめを…。（笑）

光里　病院の増改築まで最中の五十七年秋、理事長が富山医薬大に入院して腰の手術をされましたね。

痛さがわかった

理事長　そうです。手術を受けたおかげで痛さがどんなものであるか、患者さんが、どんな思いで寝ておられるかがよくわかりました。それからというものは、患者さんに手術をすすめる迫力が大分落ちたのではないかと思います。手術を院長にやってもらおうかと思いましたが、やめました。院長の腕を信頼していなかったということではありません。（笑い）

手術に自信が

院長　それまでは大きな手術は、どちらかといえば理事長にやってもらっていました。それが理事長の入院で私の責任になりました。心細い思いでしたが、どうにか無事に手術をやりとげました。自信がついたのは、この時でした。

建物が一体化

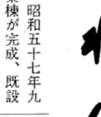
光里　昭和五十八年に入り増築工事が完成、第三期増改築工事が竣工しました。通常増改築というと、バラバラにつないでいるのが多いのですが、病院の新築棟と改築した既設棟が一体化していて、区別がつかなくなっています。これは当初から考えておられたのですか。

増築を考えた設計

理事長　普通の設計でいうと、その建物のことしか考えないものですが、日建設計は、オーナーの顔をみて将来の増築を察し設計してくれました。改築工事は内装材の不燃化、完全な防火設備が主な目的で、新築棟と同じく、明るく快適なムードづくりを心がけました。第三期増改築竣工式は三月二十一日に、そして竣工披露パーティーは三回に分けて盛大に開きました。

第三期増改築が竣工

光里　五十八年には、いろんなことがありました。三月に待望の第三期増改築工事が竣工したほか、内科を充実、内科病棟新設（四月）理事長、日本病院会常任理事に就任（四月）日本整形外科学会認定医制度の研修施設に認定（四月）百八十五床の増床承認（七月）集団給食部門で厚生大臣賞受賞（十月）などであります。また、この年に入られたのは宮原さん、早崎さん、下崎さん、永沢さん、杉谷さんです。宮原さんから……。



宮原さん

面食った食器洗い

宮原　一月に給食部に入りました。施設が新しく、とてもきれいで、大変感じがよかったです。初めは食器洗いからで、洗う食器が山と積んであるのには面食らいましたこれを一定の時間内にこなすのです。家での茶碗洗いのようなわけにはまいりません。そのうち盛りつけをやり、ごはんたき、味付けにかかりました。それが大きな蒸気釜ですから覚えるのに一生懸命でした。みんなこなせるようになるまで三年ぐらいかかったでしょうね。いやいや、今でも毎日毎日が勉強です。

赤い車椅子 ④

山本辰美

富山市民病院に入院して一カ月半の昭和五十九年一月二十一日、西能病院に転院、同二十六日、ようやく手術を受けることになった。「ようやく」というのは、富山市民病院で手術が必要なことがわかっていながら、微熱が続いたことで身体の調子が悪く、その機会がつかめないまま、ただベッド上で首をけん引していただけだった。

自分は足の骨折などで四回の手術を経験していたが、こんどの手術は、頚椎の五番、六番の固定手術のため、首を切るというのと、全身麻酔ということで不安が大きかった。

手術室に入ってしばらくして、自然に眠ってしまった。夜中に看護婦さんの声で目が覚めた。でも、まぶたが重く、とにかく眠りたかった。それを看護婦さんが何回も起こすので、「しょうがないのう、眠たいがだから…」と、怒ったことを覚えている。（怒るくらい元気だからもう大丈夫）と思ったのか、もう起こしにこなかった。

楽しかった野球も今は思い出に。前右端が山本さん

翌朝、完全に目が覚めた。手術が成功したと聞かされ、ひと安心した。夜勤の看護婦さんが「ひどい手術だったね」ということを聞かされ、頭の中が真っ白になり、大声で泣いた。あのとき、どうして、あんな大きな声で泣いたのか、今でも分からない。

思い切り泣いた後に、一人の後輩の顔が頭に浮かんできた。彼とは高校野球で同じポジションで、会社も一緒だった。（彼と以前みたいに酒を飲み、騒ぐことができないのだろうか）と思った。

そして、（いや、また彼と飲めるようになりたい、絶対そうなってやる）と、その時、自分自身に誓った。（婦中町広田）

大声で泣いた運命の宣告

腕のリハビリは鬼から仏へ

少しずつ動くようになってきた。最初は鬼のように見えた先生の顔も優しいリの時間がくるのが楽しみになってきた。

運命の宣告をされたのも、そのころだった。「頚椎損傷で、もう歩くことはできない。一生車椅子」ということを聞かされ、頭の中が真っ白になり、大声で泣いた。あのとき、どうして、あんな大きな声で泣いたのか、今でも分からない。

思い切り泣いた後に、一人の後輩の顔が頭に浮かんできた。彼とは高校野球で同じポジションで、会社も一緒だった。（彼と以前みたいに酒を飲み、騒ぐことができないのだろうか）と思った。

そして、（いや、また彼と飲めるようになりたい、絶対そうなってやる）と、その時、自分自身に誓った。（婦中町広田）

わたしはこう思う

老人の残存能力を生かす

医療は健康な老人づくりに力を

「いきいき老人社会と医療の係わりは？」と兼久氏

兼久　老人問題は、日一日と深刻さを増し、大きな社会問題ですね。

西能　はい、とくに富山県の高齢化のスピードが早いんですね。だから、若者を投入しても追いつかない状態とも追いつかない状態。

しかし、私たちの周辺をみますと、定年退職年齢になったあと、することのない社会がずっと続いていたわけですよ。

兼久　そうですね。定年退職して、次の仕事を探している元気な老人がかなりいるようです。

西能　それで私、思うんですが、定年退職年齢が六十五歳になり、やがて七十歳になっても、七十歳なら七十歳なりに社会に貢献できる能力があるはずだから、少しずつその人たちの守備範囲を広くしながら、その人の持っている能力を死ぬときまで使っていけるような、そんな社会ができたら、老人問題はかなり解消され、いきいき老人社会ができるんでは……。

兼久　そうですね、ユートピアのような気もしますけれど……。

西能　そうなんですが、八十歳以上のご老人宅を定期的に訪れ、健康診断をしている医師がいるんですけど、その医師の話では、老人が能力が落ちたとき、テレビだけ見ているのと、前の田んぼを一枚あずけるから好きなものを作られたのを作ったりしているのとでは、生きている時間がたつとだんだん活力の差がでてくるんですって。

私が非常に面白いと思いますのは、田んぼで何かを作らねばならないということがないから、その人の好みと能力に応じて体を動かしているので、いつまでもやれるんじゃないかということです。

つまり、老人に対する、社会の対応の仕方というものをもっと工夫し、多様化してあげるべきじゃないか。ただゲートボールをしているだけじゃね。

老人省つくり　本格的に取組め

兼久　私も、よく似た話を最近聞きました。九十歳近い老人で、勧めのある息子さんと二人暮らし、息子さんは食事の材料を用意し、老人は自分で作って昼食をとる。しかし、倒れたら大変だ、といって嫁にいった娘さんが老人を引きとったんですね。そしたら途端に老人の調子が狂って眼はうつろになり、通院していたんですけど半年もたたないうちに亡くなったそうです。

老人にとってみると、娘さんに引きとられて体は楽なんだけれども、生きるハリを失ったんですかね。だから、一番大事なのは生きがいを持たすことじゃないですか。

西能　そう、そう。私は非常に簡単にいつも申し上げるんですが、老人ばかりでなくわれわれも夜寝るとき、明日何をするか分かる人生を送る。明日、こんなことをしようと思って寝るのと、朝起きてから何をしようかと迷うのとでは、随分とハリが違うと思うんです。

兼久　確かにね。

西能　最近、各地区では老人たちが工夫をして生産性のある仕事に挑戦しようとの動きはありますが、あくまで実験的なことであり、ボランティアみたいなものによって動いているわけです。

しかし、こうした大きい社会問題は、是非政府の機構として考えてほしいですね。そして、その場合は厚生省やら大蔵省やらといっていないで、老人省ちゅうもんでもこしらえないとね。いまのようなタテ割のセクショナリズムのある所では、とても期待できないと思います。

病気になる前の健康保持

兼久　少し話題を進めますが、いきいき老人社会なんていわれますね。こうした社会づくりと医療との係わりはどうなんですか。

西能　はい、そこが私たちにとって問題なんで

新しい息吹きを ⑩

看護部外来

医療情勢の大きなうねりの中で、外来看護もまた大きな変容のときを迎えようとしている。

外来担当婦長として九カ月が過ぎた。高齢化の波は外来患者さんにも訪れ、慢性疾患の患者さんが増加している。

内科では糖尿病、肝臓病、成人病など。整形外科では変形性関節症、慢性関節リウマチ、加令に伴う脊柱の変性疾患が多い。

外来看護は診療の介助を第一に考えてきた従来のやり方では、その目的を達成できない。

多忙をきわめる外来看護の中で、そのサービスの質と量の充実を図ることの気づきと、その努力をすることが重要な役割である。

また継続看護の実践にむけて、看護婦だけができる看護の独自性を高めたい。患者さんに個別的な適切な助言を行うためにも、看護力のパワーアップに取り組んでいきたい。

患者さんが、（もう一度外来を訪れて話をしたい）（会って話をしたら心が安まる）。このような外来の雰囲気をつくり、看護婦も健康づくりにお役に立ちたいと願う。

時は春、花の便りも聞かれるこのごろ、看護の花の便りも届けたいと思うひとときである。

（外来担当婦長　津田勝美）

受付で外来患者さんに応対する津田婦長

ひとり一人に適切な助言
雰囲気そして健康づくりを

病院だより

一月

新しいアイデアで

四日＝仕事始め。理事長、院長が「新しいアイデアで社会の変化に対応しよう」と年頭所感。

九日＝小会議室で誕生会、該当者十五人。

院長がNHKテレビで

十一日、十六日＝院長NHKテレビ（富山）で「スキー外傷」を講演。

十二日＝理事長が五福末広公民館で「よもやま話」五福末広壮寿会の主催。

十三日～十五日＝日本バレーボールリーグ女子富山大会に救護班派遣。

十五日＝新成人は杉山幸乃さんと広田妃都美さん。院長から記念品を。

理事長が「腰痛」講演

二十三日＝理事長が電気ビルで「腰痛について」講演、電気機材卸売組合の主催。

二十四日＝理事長が神明地区センターで「腰痛について」主催は市民健康センター。

二月

四日＝互助会の牛岳スキーツアーに六十二人。

大山内科部長が講演

十日＝大山内科部長が名鉄ホテルで「セフエム剤の呼吸器感染症における使い方」と題して講演（主催三共製薬）

十三日＝小会議室で誕生会、該当者二十一人。

十四日＝五階ホールで衆院選の不在者投票。

院長がスポーツ障害の現状報告

十七日＝院長が高志会館で「平成元年度スポーツ障害相談について」現状報告、主催はスポーツドクター協議会。

十七日＝かたかご保育園で健康教室、大山内科部長が「子供が熱を出した時の対応のしかた」

三月

山本看護部長が講演

四日＝山本看護部長が古里公民館で「高令者と共に健やかに生きる」と題して講演。古里婦人会の主催。

理事長が「経営戦略」の講演

八日＝日本能率協会の第四回ヘルスケアシステム総合シンポジウム（東京）で理事長が「これからの法改正と医療機関の経営戦略」を講演。

九日＝理事長が堀川公民館で「腰痛について」堀川公民館主催。

九日～十三日＝藤園女子学園四百人の沖縄方面修学旅行に救護班派遣。

十三日＝理事長が布瀬一区公民館で「腰痛について」市民健康センター主催

十八演題を発表
第一回院内研究発表会

第一回院内研究発表会は一月二十一日、五階ホールで開かれた。西能院長は「この激動の医療社会を前進するための最大の活力である。生き生きとした病院づくりと医療サービスの向上を目指したい」と挨拶した。十八演題と発表者はつぎのとおり。（敬称略）

「当院の写損状況とその要因分析」鎧政行、「CRP定量検査導入の測定の検討」横井佐敏、「新期登録患者の再来院状況」三ツ松節男、「腰椎手術後の起立訓練における脈管系の変化」杉谷清美、「病棟医薬品の在庫管理について」上田謙一、「社会資源の活用について」今井勝憲、「外来患者アンケートについての一考察」杉田正治、「当院の休日診療について」西能優美、「米の品質と喫食率について」井上みつ子、「当院における院内表示の見直しについて」渡辺裕之、「下肢静脈血栓症に施行した血行再建術に対する検討」吉野武、「整形外科におけるRA患者の実態」大井美樹、「関節鏡検査における患者さんへの援助」楠美知子、「高令者のコルセット装着への援助」角しげ美、「申し送りの一工夫について」大島佐登美、「夜間異常行動が出現した患者へのかかわり方」矢後幸枝、「看護記録を検討して」大浦春美、「手術室の落下菌テストを実施して」田嶋典子。

親身も及ばぬお力添えで
五省会後援会　住代議士を囲む集い

住代議士

五省会住博司後援会主催の「住代議士を囲む集い」は三月十七日午後六時から名鉄トヤマホテルで約百六十人が参加して開かれた。

西能正一郎会長が「厳しい戦いを皮一枚の差で勝利を勝ちとることができました。これはひとえに住博司さんのお人柄とはいえ、皆様方お一人お一人の親身も及ばぬお力添えが積み重ねられた結果であると受け止めております」とお礼の言葉。

住代議士は「この度の総選挙は大変厳しい戦いでありましたが、皆様方の絶大なるお力添えにより勝たせていただき、有難うございました。この感激を胸に、努力を重ね、皆様方の御期待にそえるよう頑張ります」と決意の言葉をのべた。

大上県議が乾杯の音頭を取ったあと懇親に入った。出席者は激戦のあとを振り返り、住代議士の活躍に期待する惜しみない拍手を送った。

最後に斉藤貞夫副会長が〝万歳〟を三唱して閉会した。

診療体制のご案内

休日診療（日曜日・祝祭日）　午前8時30分～午後5時

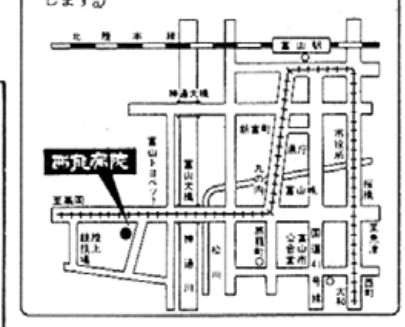
- 整形外科
- 内科
- リハビリテーション科

平日診療（月曜日～土曜日）

- 整形外科　午前 8：30～12：00　午後 4：00～7：00
- 内科　午前 8：30～12：00　午後 3：00～5：00（火・金曜日は7：00）
- リハビリテーション科　午前 8：30～12：00　午後 1：00～7：00
- スポーツ外来　火・土曜日　午後 4：00～7：00
- 神経内科外来　木曜日　午後 1：30～5：00
- 呼吸循環器科外来　月曜日　午後 3：00～5：00
- 泌尿器科外来　土曜日　午後 1：30～5：00
- 在宅看護・診療　木・金曜日　午後 1：30～4：00
- 栄養指導（糖尿病ウエイト・コントロール）　月曜日～土曜日　午前 10：00～11：00

救急出動OK

もし、救急車が必要でしたら、連絡して下さい。お迎えに上がります。常時2台待機しています。

交通機関

市内電車　新富山電停　徒歩３分
地鉄バス　新富山停留所　徒歩３分
通院バス（順路）
西能病院→富山大橋→丸の内→新富町→富山駅→桜橋通→西町→旅籠町→丸の内→西能病院
（午前運行）
（○は通院バス常時停留所，その他臨時停車します。）